

ひとは福祉しん

(題字: 若月由美)



(ホム) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

「ヨロさん一人旅、同行者三人」

- グループホームひとは長屋 西本邸の住居人であるヨロさんたちの願いは、自分が計画した一泊旅行を楽しむことです。日ごろから宮島や三次など一人で出かけては楽しんでいますが、一泊旅行となるとすべてを自分で取り仕切ることはできません。そこで彼なりに色々な人に誘いをかけて賛同者を募っているのですが、今回はなかなか賛同者も集まらず、会計係の寺尾順子さん、異性同士ではまず、ということ、ヨロさんとも仲の良い中岡れい子さん、そして運転手として私という70代の方が同行することになりました。ヨロさんの意には合いませんが、旅行が成り立つためには折り合いをつけねばなりません。今回の旅行は糸余曲折を経て玉造への温泉旅です。時間的にはゆくりのんびりですから、運転手も楽です。至る所で道の馬車を散策しました。そこでの発見です。ヨロさんは、買い物を済ませる際に同行者の我々にはほとんど見向きもせず、従業員の方に話しかけているのです。そして同じ買い物客にもよく声をかけています。宿泊先に着いても同様です。食事前、寝る前、朝起きての3回湯に入りました。じつに見事に声をかけています。道中を含め、ヨロさんへの呼びかけは「社長さん」であったり「お父さん」であったりと、出会った人との会話が変わっています。夜10時過ぎに「タバコを吸ってくる」といって出かけていきましたが待てど待てど帰ってきません。何年前には、そのままカラオケルームにいたこともありましたが、じつと待っているのには根性がありません。その間の彼の行動がどうであったかわかりません。

しかし、今回の旅行でヨロさんが私たちに示したのは、「旅行は袖触れ合うも多少の縁を築くもの。支援者づらをして先回りをしたうえで、かいは全く不要。ゆきずりの人と楽しむからこそ非日常の旅行の醍醐味があるんよ」ということだろうと思います。

そうなんだよね。必要な時だけさりげない支援があればいいんだよね。
(理事長 寺尾 文尚)

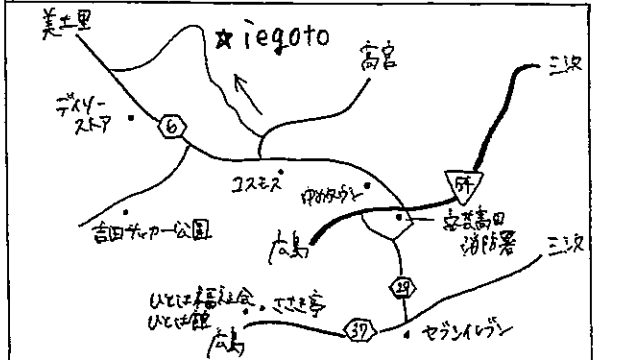
。。。充実します。。。

ひとは館がある 出入口 から入ると、共同ホーム前に 多目的棟(仮称) が建設されています。ここは相談支援事業所の事務所、実習生・来訪者の方々の宿泊場、会議の場など、制度を問わない多機能拠点として活用することを想定しています。ゴールデンウィーク前に完成予定。新築グループホームと並行して、多目的棟(仮称)についてもこれから通信でお伝えしていきます。



編集委員が 実際に行って「良かった」と思う店を紹介するコーナーを言います。不定期
今回は 安芸高田市吉田町にある iegoto を紹介します。
「iegoto = 暮らしを営む」 自然を暮らしに活かし、自分たちの手で自然と共に暮らす。店内は身近にある木などを活かした造りになっており、落ち着いた空間。子どもさんが食べると安心なものを、という想いが込められたランチデザート。ジビエ料理も。革細工製品や 切り細工製品なども販売。暮らしをそのまま営みにされています。私には ここの自家焙煎された珈琲が好きです。

営業日 木・金曜日、第1土曜日
営業時間 11:30 ~ 14:00 (ランチ)
14:00 ~ 17:00 (カフェ)
ラストオーダー: 16:30
〒731-0542 広島県安芸高田市吉田町相合1779
電話 090-4650-1850



ひとは福社会-iegotoは車で約20分の距離です

「まっうらりょうに → とらお!？」

私はホームの勤務となり1年が経ちました。その中で嬉しかったこと、それは増長さんが名前を呼んでくれたことです。その名も「とらお」!! たまに「とらお」たのめはよくわかりませんが、呼ばれた瞬間、増長さんとの距離がぐんと縮まったような気持ちになります。ホームの勤務はシフト制で、日々入浴支援者や夜勤者が変わる中であだ名をもらったこと、こんな小さなことですが、私にとっては嬉しいことです。自分はまだまだだと思いますが、小さな喜びを大切にしていきたいと感じました。

(共同ホームひとは 松浦 涼太)

まっうらの「うら」が増長さんの中で「とら」に変わったようです。今日の男性夜勤者が「誰がたのめ」を知ること、増長さんにとって大切な日常のようです。

(ホームスタッフより)

「時間に厳しい 林出さん」

去年の11月頃、厨房に入って作業をする機会が増えました。それに伴って勤務時間も日曜日よりバラバラです。退勤時間も早く厨房の仕事が終わったので、ホームのきららの仲間と一緒にのんびり話していました。しばらく話していると、遠くにいたはずの林出さんがこちらに来て「ばいばい」と何度も言ってくるので時計を見ると、話に花が咲き退勤時間を5分も過ぎていたのです。林出さん「「ばいばい」と言われると寂しい気持ちもありますが「ばいばい」にも意味があるのだらう!とポジティブに捉えて、これからもお世話話になりますよ。

(食事部 上田 真実)

「歩いていいな」

歩くことは健康維持や体づくりの良いといわれています。アグリサポートでも、作業が一段落した秋から、川の土手などを歩いています。歩いている中の一、住川さん。すり足でゆくり歩く方ですが、毎日の積み重ねで少しづつ足を上げて歩けるようになっていきます。継続することは力になるということを感じながら、もっとしっかりと歩けるようになるといいなと私は思います。

(就労センター あぶ 益田 博之)

「本々さん」

私は、去年11月からひとは館の製造をお手伝いすることになりました。大先輩の菅田さん、服部さんに、クッキーやあいす製造の作業を教わっています。初日、クッキー作りの作業が終わって「事務室へ掃除機を取りに行く」と菅田さんが言うので私もついて行きました。事務室へ入ると菅田さんは「ひとは館の本々さんです。よろしくお願ひします。」と事務室の方々に紹介してくれました。いつもは「本々はん」と呼びかけて言っているのに、この時はちゃんと「本々さん」とまじめに言っているではありませんか。何と頼りになる先輩でしょう。これからもよろしくお願ひしますね。

(ひとは工房 本々 和子)

「神楽の話」

神楽が大好きな男の子がいます。最近はおしゃべりすることが楽しいようで、神楽の話になるといつも真剣です。「誰かいね、手を取られた...」と聞けば「そりゃあ 茨木童子よ。左の腕。頼光が取るでしょう。」と左の袖を抜いて切られた茨木童子をけり、源頼光になって左の腕を掲げたり、金力で演じています。いろいろな演目の話で盛り上がり、言周りが出てくると舞うことも。今日はどの演目の話が聞けるか、楽しみにしながら待っています。

(ひとはぼこ 渡辺 義幸)

GWの休業日について

(ひとは館・さつき亭)

ひとは館

4/30(火) ~ 5/2(木), 5/7(火)

さつき亭

4/28(日) ~ 4/30(火)

5/3(金) ~ 5/6(月)

編集後記

30年近く発行を続けているこの「ひとはつうしん」。このおたりの「顔」とも言える題字を、昨年度から法人内の公募で決めることになりました。選ばれた題字は、4月号から1年間掲載されます。昨年度はひとは工房所属の金羽木さん、そしてこの4月号からは就労センターあぶ所属の若月さん。どちらも個性あふれる素敵な文字です。この題字とともに、この1年もひとはつうしんを楽しんでいただければと思います。

(白井 くらみ)